

ホンヤラドウ

ホンヤラドウは、鳥追いという冬の行事の一環として十日町に建てられたイグルーのような雪小屋である。鳥追いは伝統的に1月14日の夜に行われる。この行事では、子供たちが集落を練り歩き、大きな声で拍子木を叩き、鳥追唄を歌って農作物を食いあらす鳥を追い払う。住民たちは、餅やその他のお菓子で彼らの努力に報いる。その後、子供たちはホンヤラドウの中に集まり、炭火コンロで餅を焼き、自分たちの努力の成果を夜遅くまで分かち合う。この行事の起源は農耕であるが、今日ではコミュニティ形成と雪を楽しむことを目的としている。

ホンヤラドウには2つの種類がある。1つは「城壁型」と呼ばれるもので、3つの雪の壁の上に竹竿で屋根を作る。もうひとつは「刳り抜き型」と呼ばれるもので、その名の通り、雪山をくりぬいて小さな部屋を作ったものだ。

刳り抜き型のほんやら堂に似た雪小屋は、北日本の他の豪雪地帯にもあり、通常「かまくら」と呼ばれている。十日町の名は、鳥追唄の中で鳥を追い払うために繰り返される擬音語「ほんやら」に由来していると考えられる。ざっくりと訳すと「ホーイホーイ小屋」となる。

十日町の人たちと一緒に歌い、手を叩いて、ホンヤラドウの中に入り、驚くほどの暖かさを体験することは、冬の観光客を待っている貴重な体験である。